



「上海市魯迅初級中学」が富谷に！

富谷市日中も交流に協力

今秋、「魯迅仙台留学120周年」を迎える7月3日、上海市魯迅初級中学の生徒一行が東向陽台中学校を訪問し交流しました。

“熱烈歓迎” 富谷市日中の代表も中国の小旗を振り出迎えました。

高橋校長から歓迎の挨拶の後、当会の松田勝幸会長からも歓迎の挨拶を行い、横山弥生理事長から魯迅中学に「宮城のこけし」、生徒全員に「魯迅先生と仙台」の絵ハガキ集を贈りました。

交流では、学校給食を体験し、授業を参観。国語では魯迅の『故郷』を学ぶところを見学しました。生徒の教科書やノートなどをのぞいたり、ニーハオと声をかけたり、互いに盛り上がりつつある場面もありました。魯迅中学の先生からは「全般的に授業の進め方も生徒と一緒に考えながら進められており、また展示物なども自主的に作成されている感じが感じられました」との声もありました。

体育館で歓迎交流会も企画され、「東向中手踊り」などが披露されました。また相互に記念品を贈呈し、全員で記念撮影を行い、拍手や“再見”の声に見送られ、学校を後にしました。

魯迅中学の関係者から「盛大な歓迎と、皆さんの色々な細かい準備や心配りに、とても感謝しています。ぜひ上海においでください。大歓迎いたします」との声もありました。生徒たちの何のわだかまりもない、こうした教育・文化交流がもっと多く、また長く続くようにとあらためて実感しました。

今回の交流が富谷市で実現したこと、また当会も協力できたことに希望と喜びを感じます。魯迅仙台留学120周年、友好交流に頑張ってもらいましょう！

